

平成30年(2018年)3月22日  
山口県病害虫防除所

- 1 病害虫名 トルコギキョウ白さび病 (仮称)  
病原菌：*Pustula centaurii* (Hansf.) Thines, C. Rost & Y. J. Choi  
(=*Albugo centaurii*)
- 2 作物名 トルコギキョウ (施設栽培)
- 3 特殊報の内容 新発生

#### 4 発生経過

- (1) 発生確認月日：平成29年6月30日  
(2) 発生地域：岩国市  
(3) 発生状況：

岩国市の施設栽培のトルコギキョウにおいて、茎葉に白色の小斑点が生じる症状が確認された。神戸植物防疫所に診断を依頼したところ、国内で発生報告がない *Pustula centaurii* による新病害であることが明らかになった。

#### 5 本病の特徴

##### (1) 病徴

トルコギキョウの葉の両面、茎に白色～クリーム色の膨れた斑点(発ぼう)が生じる(図1、2、3)。のちに、菌体を被う表皮が破れ、白色粉状の分生子のうが表面に現れて飛散する(図3)。斑点周辺の植物組織内に卵胞子が多数認められる。

##### (2) 病原菌の特徴

分生子のうは、無色透明、ほぼ直方体で角は丸く、赤道部は肥厚し、分生子のう柄から連鎖状に形成され、分生子のう間には連結部を伴う(図4)。

造卵器は球形～レモン型、無色透明で壁は薄くフィルム状で、造精器はほぼ楕円形である(図5)。

卵胞子は、ほぼ球形で表面に網目と突起がある。未熟な卵胞子は薄い黄褐色～琥珀色で、成熟した卵胞子は暗褐色である(図5、6)。

##### (3) 宿主

本病原菌の宿主は、リンドウ科植物(海外でトルコギキョウ、ベニバナセンブリ等)が報告されている。

栽培されていた5品種すべてに、本病の発生が認められた。

#### 6 発生地域における今後の防除対策

- (1) 被害残渣は、圃場外に持ち出して適切に処理する(焼却するか、土中深くに埋める)。  
(2) 早期発見に努めるとともに、発生を確認した場合は罹病茎葉を速やかに除去する。  
(3) 本病に登録されている薬剤はない。



図1 ほ場における発生状況



図2 葉裏に形成された病斑



図3 茎に形成された病斑と葉上に飛散した分生子のう

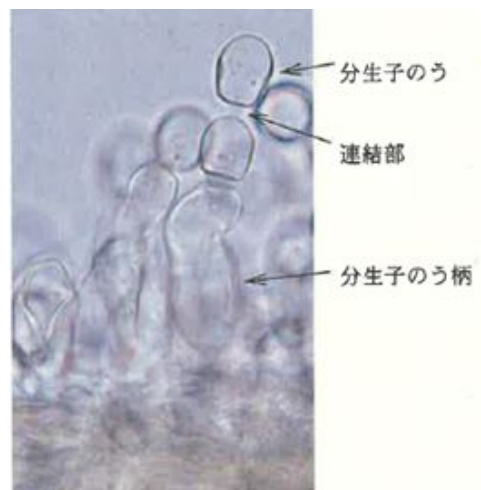


図4 病原菌の分生子のう  
(原図：神戸植物防疫所)



図5 病原菌の造卵器、卵胞子（未成熟）、造精器（原図：神戸植物防疫所）

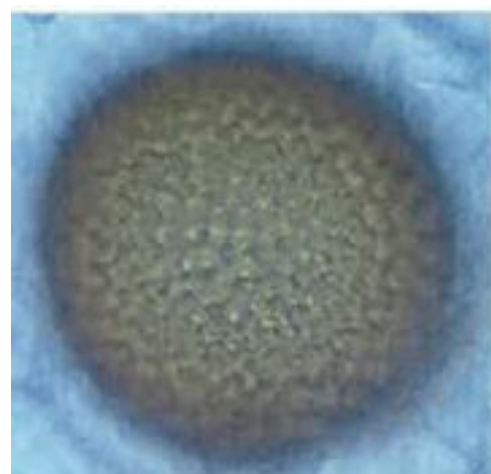


図6 病原菌の卵胞子（漂白処理）  
(原図：神戸植物防疫所)